

「東日本大震災」から10年を迎えて

2011年3月11日、14時46分に発生した大地震により、津波と原発事故が発生し、東日本は大きな被害を受けました。被災された方々に謹んでお見舞い申し上げるとともに、10年という月日を復興に向けてご尽力して頂いている方々に感謝申し上げます。

「東日本大震災」は千葉県でも津波や液状化、そしてコンビナート火災なども発生させ、鉄道に関連する施設も甚大な被害を受けました。そして、線路の復旧に向けて尽力している最中でも、原発事故により節電も余儀なくされる現実も発生しました。

千葉地本は組合員の安否を確認しつつ、被災地区を見回りながら組合員と地域の被災状況を現地に立って確認して、組合員や地域のために何ができるのかを考えて実践してきました。千葉地本管内では、「被災した組合員宅へのお見舞い行動」「旭市のボランティア活動」などを行ってきました。そして千葉県以外に家族がいて、避難を余儀なくされている現実に踏まえて、「支援物資を被災地に届ける取り組み」「被災した組合員に届けるカンパ活動」や原発事故で避難を余儀なくされた組合員と家族への「原発避難村支援行動」、そして東北地方の復興のために「岩手県（宮古市）、宮城県（松島町）のボランティア活動」「仮設住宅の方々に花を届ける行動」を取り組んできました。

被災地でボランティア活動をすると、震災当時のことを生々しく語って頂くと同時に、現地で震災の爪痕を見ることで、災害に対する価値観がこれまでと変わったという意見を多く頂きました。そして、「遠路はるばる来ていただいてありがとう」などの感謝の言葉を頂き、「人は一人では生きていない」「助け合いながらじゃなければ生きられない」などの意見も多く頂いて、地域貢献というJR東労組が目指した取り組みを通じて、社会の現実やヒューマニズムと防災意識を養った組合員が醸成されました。その組合員が現在もいるJR東労組だからこそ、2019年9月と10月に発生した台風被害による支援活動に繋がったのだと確信しています。

千葉地本は、これまでJR東労組運動で培った抵抗とヒューマニズムの精神と、過ちを正すことを拒否せずに、過ちに向き合って正した歴史を脈々と受け継ぎ、新生JR東労組運動を実践して発展しています。一方、コロナ禍で社会や経営状況が一変しても、2月13日に地震があったように自然災害は発生します。その度に報道される助け合う姿は、どういう状況になっても変わることはありません。JR東労組は、組合員の「安全・健康・ゆとり」を担保して働きがいを出るために、会社と労働条件の向上だけに取り組んでいるわけではありません。様々な取り組みを通じてヒューマニズムを養い、助け合いのできる組合員と共に新生JR東労組を創り出し、会社と建設的な議論をしながら鉄道を残し、雇用と職場、生活を守るために奮闘していきます。そして未加入者の皆さん、新生JR東労組に結集して切磋琢磨し、様々な難局を乗り越えていきましょう！

2021年3月12日
東日本旅客鉄道労働組合
千葉地方本部第9回執行委員会